

マヒワ（アトリ科） 全長12センチ

4月17日、周囲の野山はまだ芽吹き前であるが、早くもヒバリの囀りが聞こえる早春。

冬鳥のマヒワの群れが畑の上空を飛び交っていた。まだ北の繁殖地に移動せず、留まっている一団でしょうか。その数50羽以上。上空を波上になって旋回すると、畑の地面に吸い込まれるように降りて行った。

ここには冬枯れのマツヨイグサが、立ったまま少し残っていた。マヒワは地面に降りて餌を探すものと、マツヨイグサの茎で食事するグループがあった。



オス。固い果実の中から種を取り出した。

茎にはびっしりと数えきれないほどの果実が付いている。

マヒワのクチバシの先端は細く、堅い果実の中から種子を取り出して食べているのでしょうか。地面に降りているグループも、倒れた茎から果実の実を突いているのが分かった。私の横を通過する車に驚き、一斉に飛び立った。

だが少しの時間待っていると、再び同じ場所に戻って来た。ここはマヒワにとって貴重な食事場所になっているのでしょうか。



上がオス、下がメス。 倒れた茎で食事中。



通過する車に驚き飛び交う。

後でマツヨイグサの果実の殻を割って見たら、小さな種がびっしりと詰まっていた。ここで十分な栄養を補給し、北の繁殖地に向うことでしょう。



メス。お腹が白っぽいので区別される。



オスの背中はこんな模様です。